

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

83号
2022
2.11

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
http://www.pref.kyoto.jp/plant/

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。

行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。



← 京都府立植物園【公式】Twitterアカウント始めました！見頃情報を中心につぶやいています。

京都府立植物園【公式】YouTubeチャンネル始めました！動画で園内の様子を紹介しています。 →



第30回 洋ラン展

- 期間：2月4日(金)～2月13日(日)
- 場所：観覧温室(特別展示室)
- 内容：洋ラン約200鉢を展示！(販売あり)

第10回 シャドーボックス作品&クラフト展

- 期間：2月11日(金祝)～2月20日(日)
10:00～16:00(最終日は15:00まで)
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：「植物」をテーマにシャドーボックスなど約40点を展示

バラ剪定講習会

- 2月19日(土) 13:00～15:00(受付12:30～)
- 「四季咲きバラの剪定について」
- ※植物園会館2階研修室・ばら園
- ※講師：日本ばら会京都部会会員
- ※ばら園で実技があります。※定員：先着60名
- ※参加費：200円(別途入園料)

第17回 早春の園芸市

- 期間：2月25日(金)～2月27日(日)
- 時間：9:00～17:00(最終日は16:00まで)
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：雪割草、サボテン類など話題の植物を集めた園芸市

第30回 春蘭展

- 期間：3月11日(金)～3月13日(日)
- 時間：9:00～17:00(最終日は16:00まで)
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：シュンラン約100点及び席飾り5席を展示(販売あり)

東洋蘭講演相談会

- 日時：2月13日(日) 13:30～15:30(受付13:00～)
- 場所：植物園会館2階研修室 ○定員：先着60名
- 内容：寒蘭、春蘭など東洋蘭全般の栽培を中心とした講習会
- 講師：東洋蘭洛風会会員

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！
毎週土曜日は・・・
植物園会館前集合：午後1時スタート！

「水曜ミニガイド」 植物園認定ガイドがご案内！
毎週水曜日は・・・
植物園会館前集合：午後1時スタート！

「植物園ガイド」が植物案内！
～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！～
① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
③ ガイドは1時間程度。(無料)
* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

「園長と園内散歩」
2月20日(日) 何処を歩くかはお楽しみ！
植物園会館前集合：午後2時スタート！

植物園芸相談

- 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141

スマホdeガイド



QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定！

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成！
「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察！

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP！



今週の「探して！」
2022. 2. 11
83号

⑫ フクシア・フルゲンス

アカバナ科。メキシコ、中央アメリカに分布。標高1,500~2,000m級の広葉樹林帯の岩上や樹上に着生する。萼(ガク)が非常に長いことが特徴。種小名のフルゲンス(*fulgens*)は「輝く、光沢がある」の意味で赤花に用いることが多い。

⑪ ロウヤガキ

カキノキ科。中国原産。カキノキの仲間で、秋から冬にかけてがく片が細長く羽根つきの羽根に似たような実を結ぶ。この実は小さく渋いため食用とはならないが、独特の形状と色味が面白く、観賞用として盆栽などによく利用される。

⑩ ケコンロンカ

アカネ科。中国南部から台湾に分布。長さ5cm程度の白い葉のように見えるものは、1枚のがく片。5枚あるうちの1枚だけが大きくなり白色付いたもので、がく苞と呼ばれている。星形の花は1cm程度の大きさでオレンジ色がよく目立つ。

⑨ ハボタン

アブラナ科。原種はヤセイカンランで、ヨーロッパ西南部の海岸地帯に分布し古くより薬草として用いられ、後にキャベツやブロッコリー、ケールなどの食用に改良された。ハボタンはその中のケールを観賞用に改良したもの。

① シナマンサク

マンサク科。中国が原産。日本に自生するマンサクは、春にいち早く開花し、「先ず咲く」花木としてその名が付いたといわれている。シナマンサクはマンサクよりもさらにひと月近く早い厳冬期に、同じ仲間の中で最も大きな花を付ける。

② ニホンズイセン

ヒガンバナ科。地中海沿岸地域原産。名前にニホンとついているため日本固有の植物と思われがちだが、古くにペルシャから中国にもたらされ、それが日本に渡ってきたとされている。北陸地方の海岸沿いの一部では群生している。

③ クレマチス・ウロフィラ

キンポウゲ科。中国原産。冬に花をつける常緑のクレマチスで寒い季節にも花を咲かせてくれる。香りはほとんどない。ベル形のクリーム系白色の花を下向きに咲かせる。花弁はシルクのような質感がある。耐寒性が強い。

④ コケモモカマツカ

バラ科。台湾原産。枝はよく分枝し、水平方向に伸びる。刈り込みに耐えることから、ロックガーデンや小物盆栽等に仕立てられることが多い。葉の形がコケモモに似ている。4~6月頃に径1cm程の白色の5弁花をつけ、秋に果実は赤熟する。

⑤ ジャノヒゲ(リュウノヒゲ)

クサスギカズラ科。北海道南西部から九州、朝鮮半島などに分布。別名リュウノヒゲともいわれ、細い葉をへびやリュウの髭に見立てたのが名の由来とする説もある。種子は球形で、成熟前に子房から露出し、深い青色に熟す。

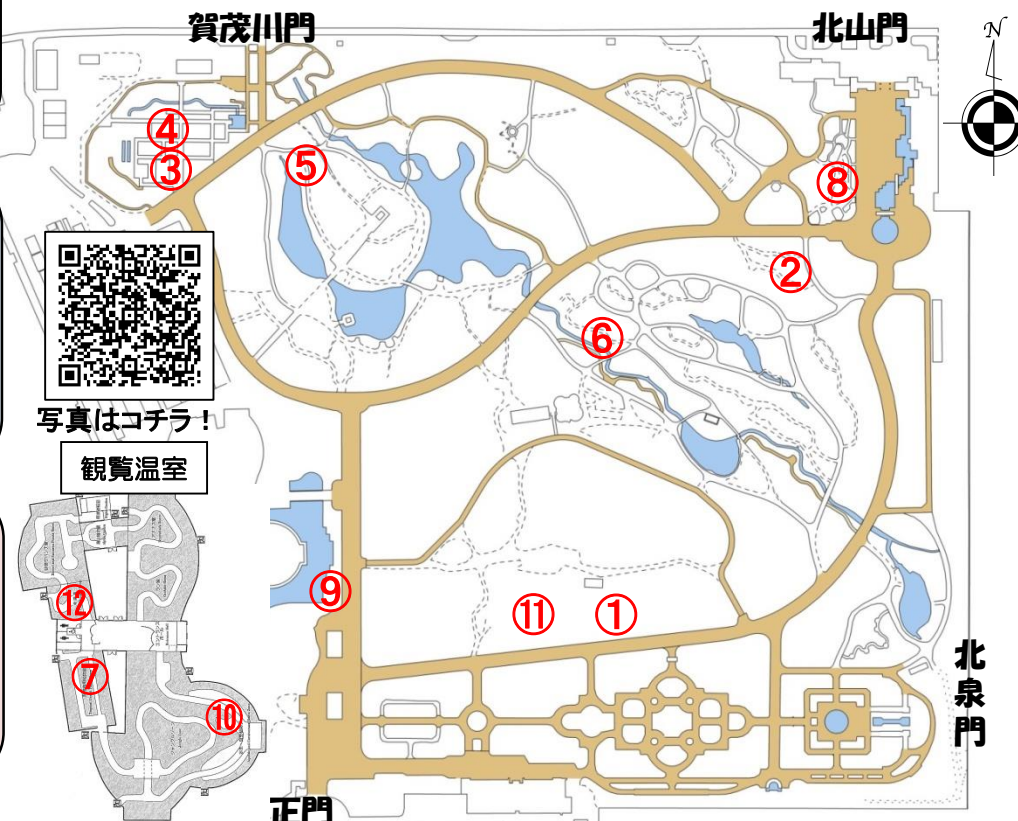
⑥ アオキ

アオキ科。本州、四国、九州、沖縄などに分布。四季を通じて常緑で葉のほか、枝も常に緑色(青い)であるため名付けられた。ゲッケイジュ(月桂樹)の葉の形と色に似ることから、英語ではJapanese laurelともいう。雌雄異株。



写真はコチラ!

観覧温室



⑧ ギョリュウバイ

フトモモ科。ニュージーランドとオーストラリア南東部に分布。ギョリュウに似て葉が小さく、花がウメに似ることから名が付いた。またマオリ語でマヌカともいう。原生地では蜂蜜の蜜源としても好まれ、蜂蜜はマヌカハニーと呼ばれている。

⑦ カカオ

アオイ科。熱帯アメリカ原産。属名の *Theobroma* はギリシャ語で「神(theos)の食べ物(broma)」を意味する。白い幹生花を房状に着ける。結実率は1%未満。果実は約6か月で熟し、中に20~60個ほどの種子を持ち、これがカカオ豆となる。